

# 市内の認可保育園の運営状況

## —保育料改定条例案を議会へ—

問子育て支援課 ☎724・2138

保護者が就労したりあるいは病気などの理由により、家庭で保育できない児童を保護者に代わって保育する施設が保育園です。

市内の認可保育園の保育と運営の現状についてお知らせします。

### 保育の現状

市内には市立・法人立合わせて44か所の認可保育園があり、0歳から就学前の乳幼児4259人（今年度7月現在）を保育しています。

今年度は、高ヶ坂ふたば保育園、多摩境敬愛保育園（小山）、光の原保育園（小川）が開所し、245人の定員増がありました。このほかにも延長保育（3園）、一時保育（3園）、子育てひろば（5園）などの増設も行われています。また、昨年度途中には、年末保育（2園）、夜10時までの夜間保育（1園）も実施されています。

しかし、7月1日現在の待機児童数は、503人（0歳児46人・1歳児144人・2歳児162人・3歳児130人・4歳児16人・5歳児5人）となっており、保育

需要は高まるばかりです。

### 運営費の現状

保育園の全運営費は、国基準保育所運営費（8時間保育などの経費）と11時間開所、延長保育、職員配置の充実などの東京都・町田市加算の運営費に区分されます。2003年度の実績は、グラフ1・2のとおりです。

### 保育料改定の必要性

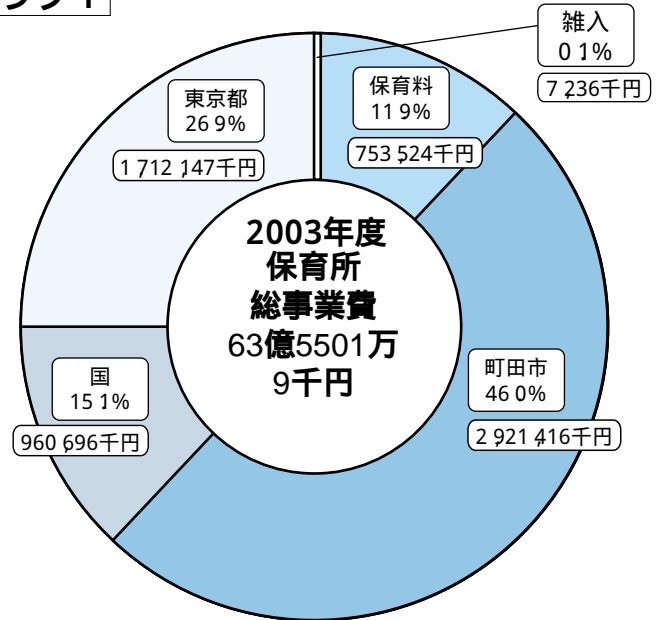
地方財政の三位一体改革が進められ、今年度から公立保育園に対する国・都の運営費負担金（補助金）が廃止されました。保育料は、国基準保育所運営費の一部を利用者の方に負担していただく受益者負担金です。当市では、保育料の指標は、補助金の算出根拠である国基準徴収額に対する保育料の割合とされてきましたが、公立保育園が補助金の対象外となったことでこの指標は、意味をなさなくなりしました。

しかし、すでにお知らせしたように、3月に「町田市保育料問題懇談会」により、利用者負担率25%を当面は超えてはならない上限の水準とする新しい指標が示され、3歳児区分の保育料の新設、複数児世帯の年長の子保育料の5割低減なども提言されました。

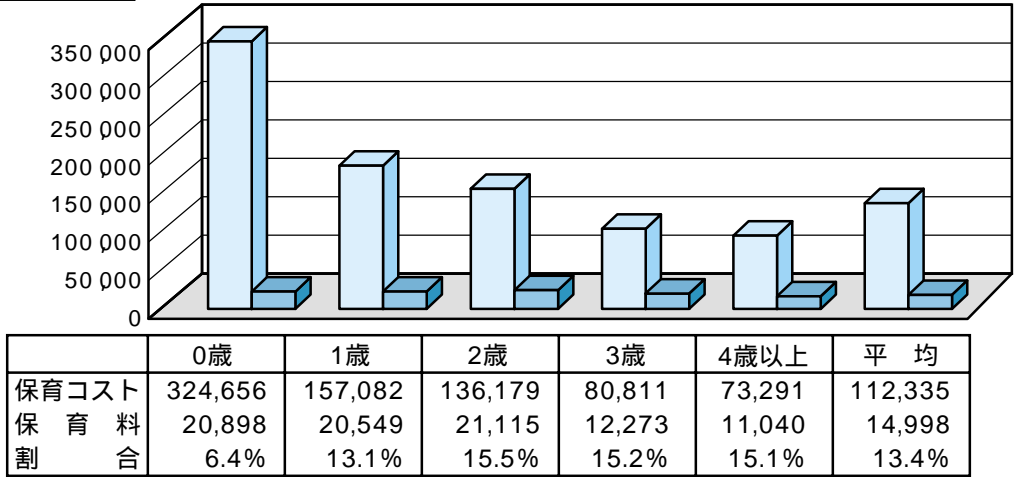
昨年度の一人当たりの国基準保育所運営費は7万314円、一人当たりの月額保育料は1万4998円でした。利用者負担率は、21・3%でしたので、25%を大きく下回っています。

一方、増え続ける待機児童解消のための保育園新設や子育て支援の拡充に新たな歳出が必要となっている現状を考えれば、利用者負担の適正化を段階的に図り、諸提案を実現することが求められています。このため、市は、議会に保育料改定のための条例案を提出しています。

### グラフ1



### グラフ3 一人あたりの月額保育コスト(2003年度)

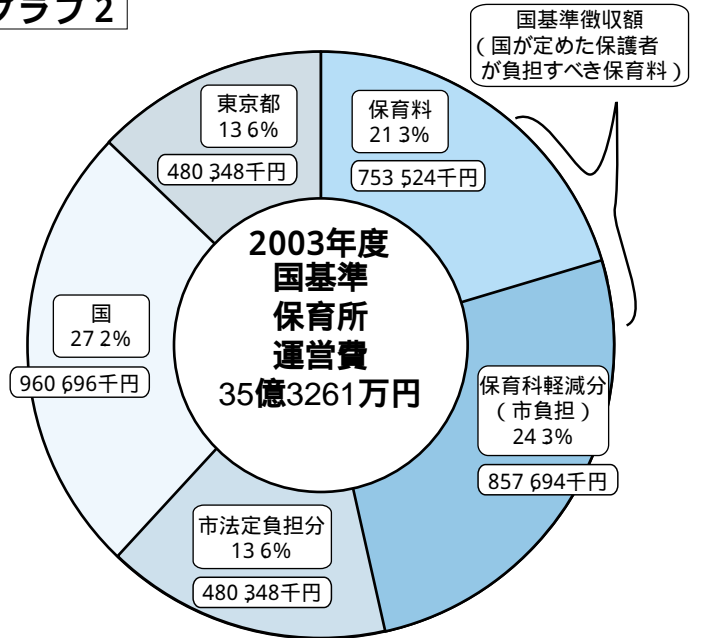


### 保育コストについて

町田市の保育コストを年齢別にみると、おおむねグラフ3のようになります。0歳児にかかる経費が、特に高いことがわかります。しかし、保育料の占める割合は、平均でも13.4%にすぎません。

(注) 定員100人の保育園をモデルに国基準保育所運営費と運営費加算(都・市)の決算額をもとに作成しました。

### グラフ2



町田に静かな空を返せ  
騒音軽減を要請

8月23日、町田市は、神奈川県及び厚木基地周辺7市とともに、在日米軍司令官、在日米海軍司令官、厚木航空施設司令官、駐日米国大使に対し、厚木基地への新機種の追加配備に伴い、騒音軽減措置を講ずるよう要請を行いました。また、防衛施設庁、防衛庁、外務省に対しては、このことを米側に申し入れるよう要請しました。

これは、8月20日に在日米海軍司令部ならびに外務省から、現在、厚木基地に配備されているF・A・18Cホーネット一飛行隊に代えて、9月下旬からF・A・18Eスパーホーネット一飛行隊が配備される旨の発表を受けて行ったものです。

町田市はかねてから、日米両国政府に対し、騒音問題の抜本的な解決をたびたび申し入れてきました。

8月23日、町田市は、神奈川県及び厚木基地周辺7市とともに、在日米軍司令官、在日米海軍司令官、厚木航空施設司令官、駐日米国大使に対し、厚木基地への新機種の追加配備に伴い、騒音軽減措置を講ずるよう要請を行いました。また、防衛施設庁、防衛庁、外務省に対しては、このことを米側に申し入れるよう要請しました。

今回の要請では、厚木基地周辺の航空機騒音被害の実情を十分認識し、騒音の総量が減少される具体的な措置を早急に行うことを強く求めました。

新機種配備後は、市民への被害が拡大しないか騒音状況を注視していきます。

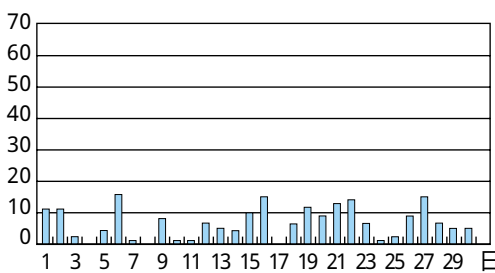
町田市では、機会があることに、米軍及び日本政府に対して要請を行っているところですが、今後も引き続き、東京都、神奈川県や基地周辺各市とともに、航空機騒音の防止対策等について粘り強く要請していきます。

問企画調整課 ☎724・2103

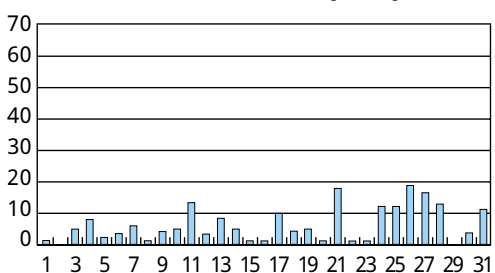
### 航空機騒音発生状況(2004年4月~6月)

測定場所	測定月	総数	騒音発生回数			
			70~79デシベル	80~89デシベル	90~99デシベル	100デシベル以上
市役所屋上	04年4月	202	174	27	1	0
	04年5月	194	173	20	1	0
	04年6月	756	367	226	114	49
本町田東小学校	04年4月	97	86	11	0	0
	04年5月	105	92	13	0	0
	04年6月	480	254	157	62	7
小山小学校	04年4月	201	180	18	3	0
	04年5月	147	129	18	0	0
	04年6月	242	207	31	4	0
町田第五小学校	04年4月	159	145	12	1	1
	04年5月	155	138	16	1	0
	04年6月	528	307	139	72	10

### 騒音発生回数 町田市役所屋上(4月)



### 騒音発生回数 町田市役所屋上(5月)



## 航空機騒音測定結果

2004年4月~6月

問環境保全課 ☎724・2711

6/21は欠測

騒音計設置場所  
市では1983年3月に航空機騒音測定器を市役所本庁舎屋上へ設置し、24時間連続測定を開始しました。その後、1985年2月から小山小学校、同年11月から本町田東小学校、2003年1月からは町田第五小学校にて同様の測定を開始しました。市役所屋上の日ごとの発生回数は右表のとおりです。発生回数は、70デシベル以上の騒音が5秒間以上継続した回数です。

音のめやす  
70デシベル・・・目覚まし時計の音  
80デシベル・・・地下鉄の車内  
90デシベル・・・スピーカーの1メートル前で聞くカラオケの音  
100デシベル・・・電車通過時のガード下

2004年5月24日の米空母キティホーク入港後、騒音発生回数の増加がみられました(7月19日出港)。